

1. 2. 3. 4.
すこつに くこみう いろにわ めのかな しまなこ のずしこ こしめろ えきるの 来ななな たれれ りははは てさささ きちちち かななな

ずれれれ やややや な主かひ ぐはみく さなはき めがうこ にねなこ みがだろ ついれを るるるば あゆこ追お いたこい すかろも るにと

みみはむ こたげな えさまれ をんしは 生かとか けみがみ るのをの みみ消統す こくしべ とにさま ばはりす まへつあ こりかた

とくれら とだしし ありこき いたこ世 にるろを みなな受う つれぐけ みのさ継つ こもめぐ とのたを ばなまえ をりわん

この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来了。そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。
マタイ 5:1, 2

5

義にぞ飢え^う渴^{かわ}く なれは幸^{さち}なれや
主はな^{ねが}が願いを ゆたかにみたさん。
なれの求むる み神の義をば
神はたまわん。

6

隣^{あわ}れみに富^とめる なれは幸なれや
すべての苦しむ^{くる}→人^よに寄^そり添いて
助^{たす}くるなれは ついに御神の
悲^{ひあい}愛をもちえん。

7

心清^{きよ}らかな なれは幸なれや。
主^{にすがた}の似姿にぞ 変^かえられ御神の
栄^{さかえ}とぞならん 清き心は
神を見るなり。

8

平和^{へいわ}つくりだす なれは幸なれや。
すべて人につ^よき 良^{かた}きことを語る
人^{さば}を裁かぬ なれはみ神の
子^よと呼ばれなん。

9

義のため苦しむ^{くる} なれは幸なれや
神は永久^{とこしえ}の 祝福^{しゅくふく}をたまわん
死^{いた}に至るまで 忍^{しの}びしなれは
御^{みくに}国^つを継^つがん。

10

わが僕^{しもべ}ゆえに この世^よに憎^{にく}まれ
罪せらるるとも なれは幸なれや
預^{よげん}言^{しゃ}者の受^うく 神^{むく}の報^{むく}いを
なれも受くなり。

11

義のために世より 嘲^{あざけ}り^{あなど}侮^り
忍^{しの}ばざるをえぬ なれは幸なれや
御神はなれに 義^{かんむり}の冠^{むり}を
備^{そな}えて^ま待^まてり。

12

いま飽^あくるものは 後^{のち}の日^う飢えなん。
いま笑^{わら}うものは 後^{なげ}の日^{なげ}嘆^{なげ}かん。
つまずかすもの わざわいなれや
苦^{くる}しみ来^きたらん。